

《記入例》


様式第1号（第4条関係）

令和 年 月 日

南丹市地域定住促進拠点施設整備事業補助金交付申請書

南丹市長 様

申請者【太枠内に記入／関係書類を添付】

所在地	〒 622 - 8651 南丹市園部町小桜町47番地
団体名	南丹振興会
代表者名	会長 南丹 太郎 
電話番号	090-0000-0000 （連絡が付きやすい電話番号）

下記のとおり事業を実施したいので、補助金 **3,000,000** 円の交付を申請します。

活用空き家	空き家所在地：南丹市 園部 町 小桜町00 番地 (元)所有者名： 空家 次郎
事業期間	令和 2 年 9 月 1 日～令和 2 年 12 月 20 日(予定)
活用期間	事業完了後 10 年間（最低 10 年間は活用）
整備目的	空き店舗を活用して、お試し住宅・貸オフィス・カフェを整備し、若者世代の定住と商店街の創業支援、地域間交流の促進をめざす。
改修内容	雨漏り箇所・外壁改修、部屋の間仕切り変更、ユニットバス・水洗トイレ設置
関係書類	<input type="checkbox"/> 事業計画書(別紙1) 【↓添付してください↓】 <input type="checkbox"/> 団体規約 <input type="checkbox"/> 団体構成員名簿 <input type="checkbox"/> 売買契約書又は賃貸借契約書等の写し <input type="checkbox"/> 改修工事費の見積書(3社分)

※過去に本補助金の交付を受けた空き家については、補助対象となりません。

《記入例》

別紙 1

事業計画書

1. 地域の現状	(1) 事業実施地域の範囲(行政区) 南丹市園部町小桜町・美園町・宮町			
	(2) 人口減少の状況など 本地域は古くから城下町として栄え、中心市街地として多くの商店があったが、近隣への大型店舗の進出により客足が落ち込んでいる。さらに若者世代の転出で人口減少が進み、高齢化率も40%を超えた。近年は店主の高齢化や後継者不在で廃業する商店が増えており、空き店舗が増加して地域の活気がなくなっている。			
2. 地域がめざすべき姿	(1) どのような地域をめざすのか かつての城下町時代のように多くの人々が行き交い、各世代が活発に交流できる地域を復活させる。			
	(2) 地域特性とその活用方法 近隣地域には、市内の大学などに通学する学生の宿舎があり、こうした地域から、若者世代を本地域に呼び込む仕組みをつくる。			
3. 移住者受け入れのために必要な取組	(1) 仕組みづくり 市内の学生にヒアリングを行ったところ、自習できるカフェのニーズが多かった。また、地域には住民が気軽に集える場所がなくなってしまうことから、お試し住宅や貸オフィスとあわせて若者世代・地域住民双方が交流できるカフェを整備し、地域の情報発信拠点にするとともに、交流から生まれる声を吸い上げて、地域活性化に向けた取組に生かす。			
	(2) 具体的な取組(移住者受入のための実践活動など) 団体名のSNSアカウントを作成し、学生など若者世代向けに営業活動を行う。また、カフェを利用し、地元住民による創業相談や移住相談などのイベントを開催する。			
	実施時期	実施内容		
	H30年9月	工事着手		
	H30年12月	工事完了		
	H31年1月	オープニングイベント・内覧会		
H31年2月～	お試し住宅・貸オフィス入居、カフェ開業			
4. 予算額(円)	工種	数量	単価	金額
	屋根葺替・外壁工事	1式	2,000,000	2,000,000
	水回り・電気配線・内装工事	1式	2,600,000	2,600,000
	事業費計			4,600,000
	財源内訳	市補助金		3,000,000
その他()				
自己負担		1,600,000		

※本計画書については、地域内での調査や分析結果を踏まえたうえで、構成員が話し合いを行い、長期的な視点で作成してください。